

企業人の 仕事観



再エネ関連企業で
活躍する人材を訪ねる本連載。
今回は太陽光パネル取付金具を製造する
動力の岸本課長の人となりに触れる。

——志望動機は。

大学では建築学を専攻したが、その傍ら環境学にも関心があった。就職活動を進めている際、当社の鈴木竜宏社長の話を知り、鈴木社長の事業の展望や経営方針、仕事への熱量に惹かれて当社を志望した。

——入社後の経歴は。

約1年間、営業部で施工管理に従事した後、開発部に移り、太陽光パネルの取付金具や架台などの開発に携わった。最近は、部下を指導するようになり、人材の育成にも力を入れている。

——苦労したことは。

開発デザイン課で太陽光パネル取付金具や架台を開発することになった時は、とても苦労した。ひとたび試作品を作ることができたとしても、それを商品として売り出していくためには、コストや施工性など、様々な点を十分に考慮しなければならず、それが非常に大変だった。コスト削減を念頭に形状を変えつつ、図面を引き直す作業を何度も繰り返してきた。上司や営業担当の同僚、現場の施工者などに助言をもらいながら、高品質かつ価格競争力のある製品を開発するために必死だった。

——顧客や取引先など、社外の人



プロフィール ● 1990年静岡県生まれ。2013年スズキ太陽技術(現・動力)に入社。営業部を経て、開発部に配属され、17年4月より現職。

——どう接する？

良好な関係を築くため、丁寧に接するように心掛けている。雑談を交えながらも、相手の要望や現場の課題を細かく聞き出して、できるだけ製品化に反映するように努めている。

——上司との接し方は。

上司から指示を受ける際は、必ず期限を確認するようにしている。また、上司は多忙なため、報告する時は、要点を絞って簡潔に伝えるようにしている。

——同僚との接し方は。

「メーカーとして競合他社より優れた製品を開発する」

動力 開発デザイン課 岸本 正輝 課長

仕事では、メールや電話を適宜使い分けて、コミュニケーションをとるようにしている。雰囲気作りも意識しており、時には同僚とプライベートの時間も共有し、親睦を深めている。若手社員だけの飲み会を開き、積極的に幹事を担当してきた。

——部下との接し方は。

部下の成長を念頭に問題点を指摘し、叱りつつも、成果を上げた時は褒めるように意識している。メリハリをつけて仕事に取り組んでもらえるように、指導を心掛けている。仕事にミスはつきものだが、同じミスを繰り返してはいけないので、部下が失敗した時は一緒に原因を考えながら再発防止策を伝えるようにしている。

——仕事でやりがいを感じる時はどのような瞬間？

まず、我々が開発した商品がお客様から評価された時だ。我々が開発した製品が使用されている現場を目にすると、充実感に満たされる。他には、長く指導してきた部下に成長が見られた時にもやりがいを感じる。

——仕事で意識する点は。

やはり、我々はメーカーなので、競合他社よりも優れた製品を開発できているかどうかを意識している。今後も引き続き、施工性の高い製品の開発に力を入れていく。

——仕事のモチベーションはどう維持している？

何事にも興味や関心を持ち、新しいことに挑戦するようにしている。そうすれば、私の場合は、モチベーションの波に左右されずに、意欲的に仕事に取り組むことができる。